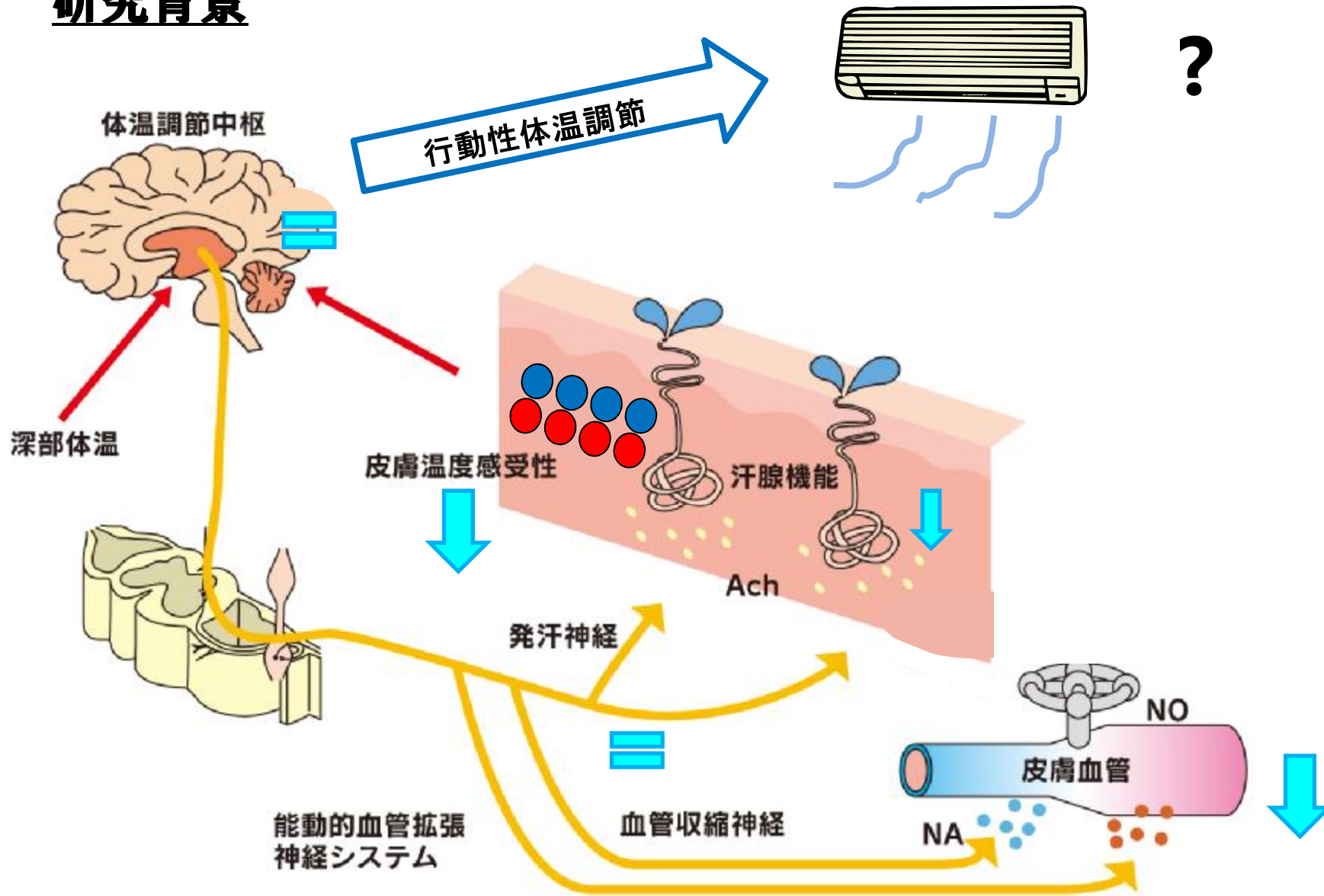


夏季日常生活下における 高齢者の温熱環境



井上 芳光
(大阪国際大学)

研究背景



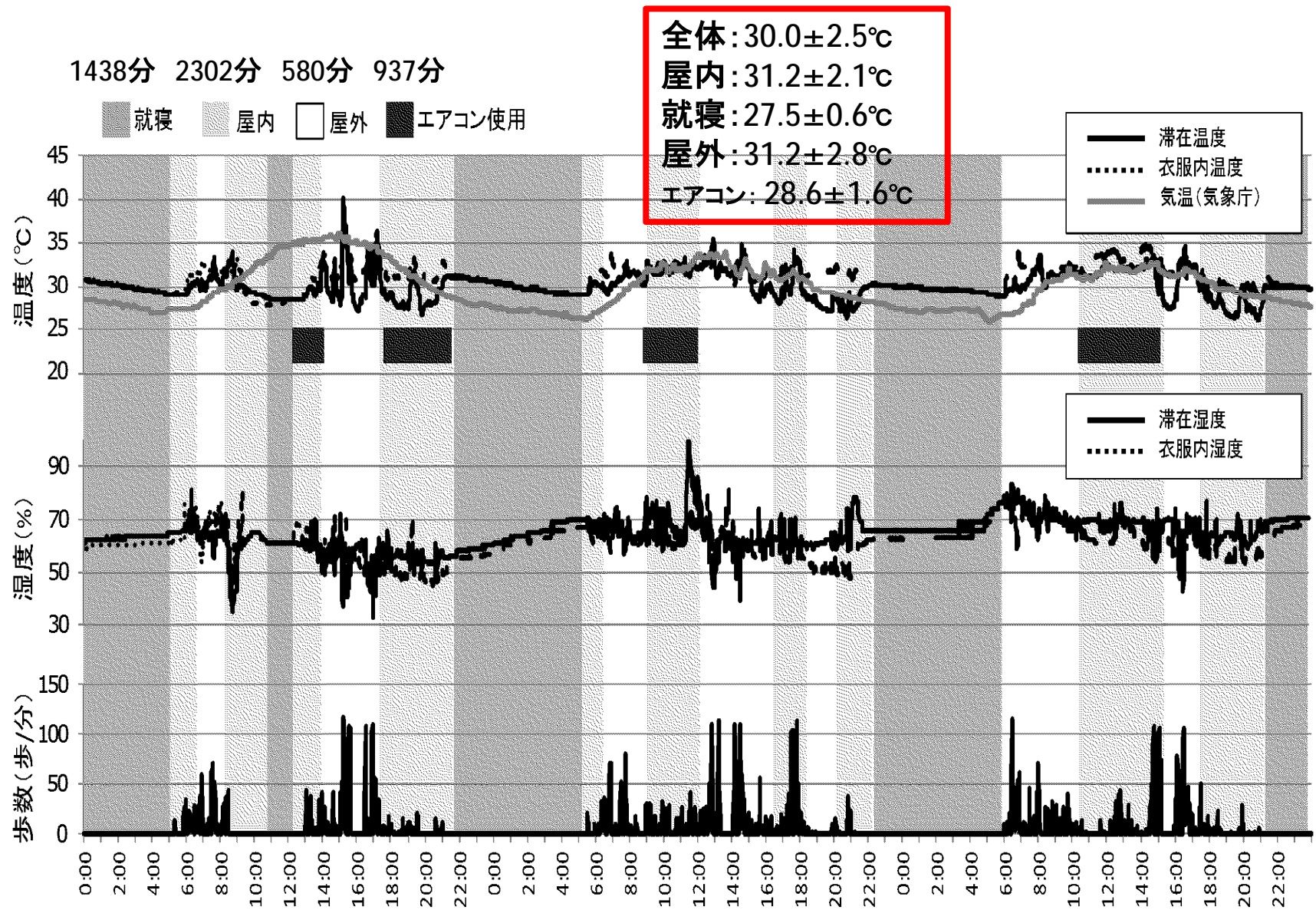


図1 高齢男性 (Subj. KY) における夏季日常生活下 (3日間: 4320分) での気温 (気象庁発表)、滞在・衣服内温度、エアコンディショナー (エアコン) 使用、滞在・衣服内湿度および歩数の変化。

(井上ら, 2016)

高齢者：高温多湿環境下で生活している

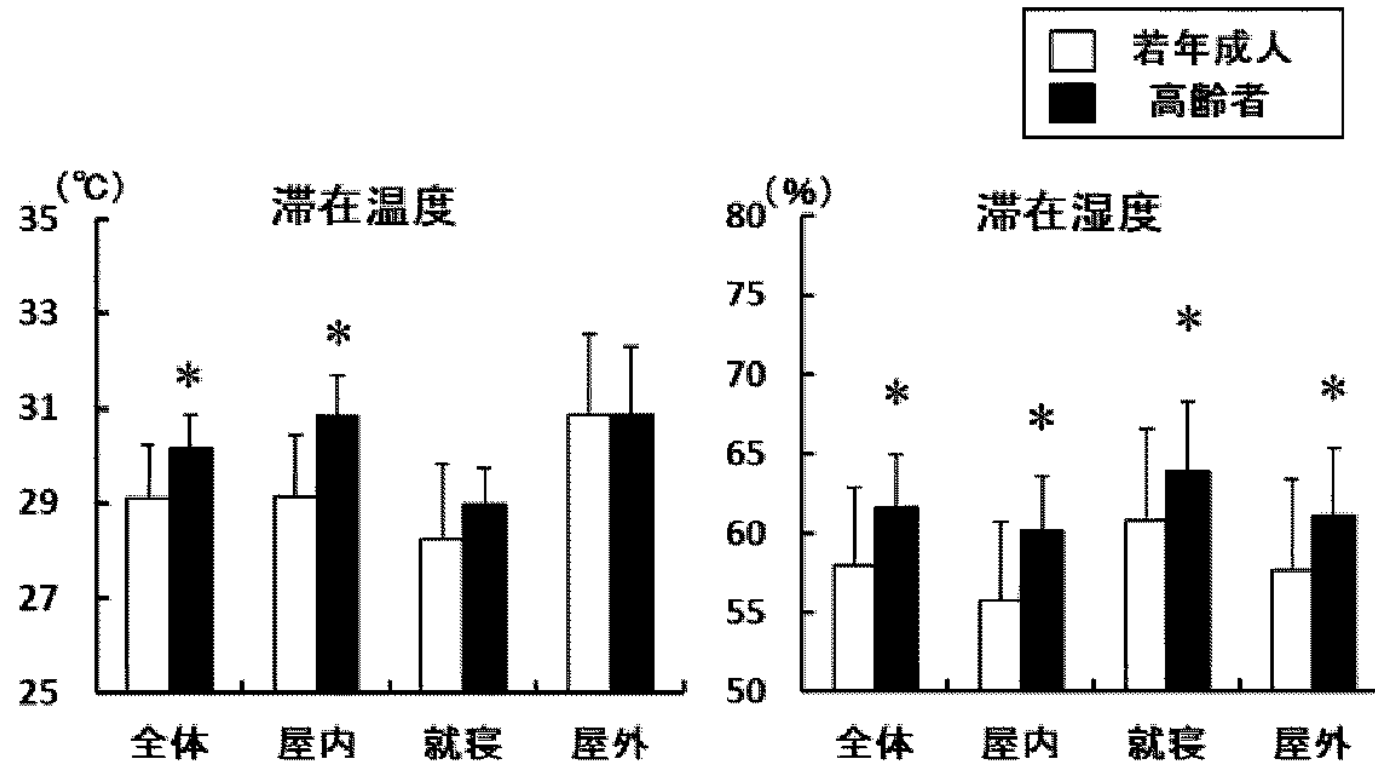


図2 若年成人と高齢者における3日間の調査日（全体）および屋内滞在時間帯（屋内：就寝時間帯は除く）、就寝時間帯（就寝）、屋外滞在時間帯（屋外）の滞在温度および湿度。*は有意な年齢差を示す。

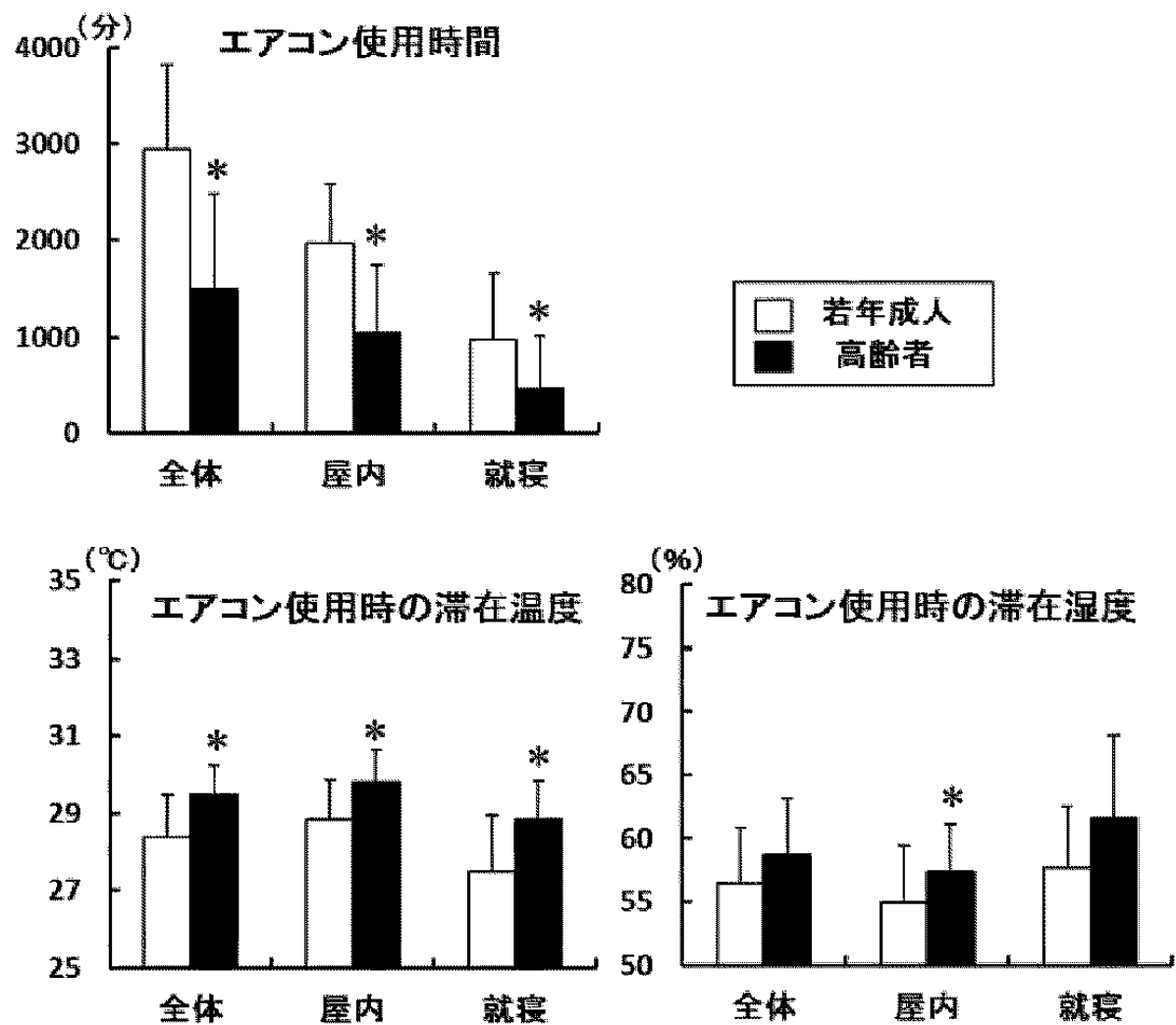
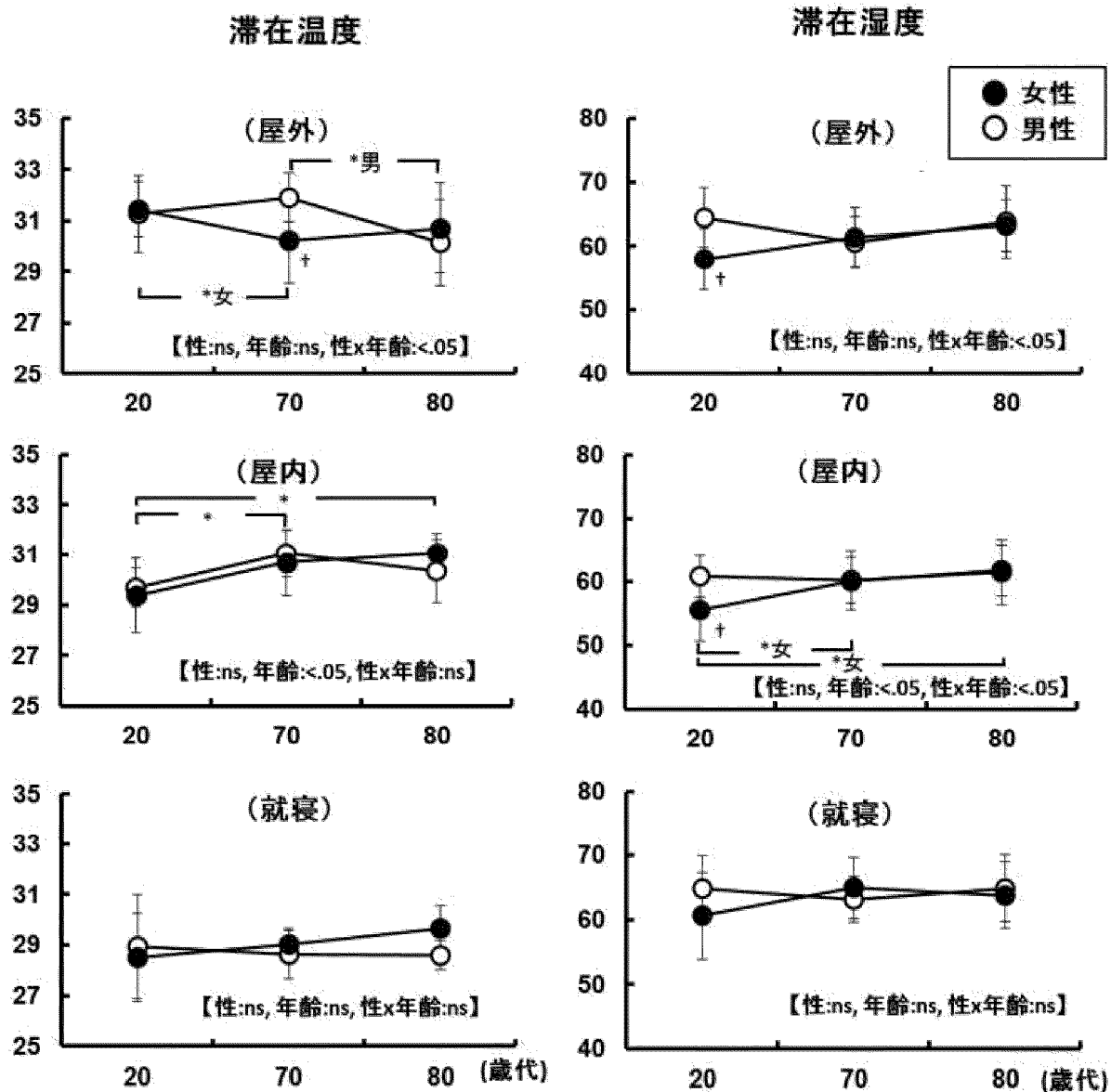


図3 若年成人と高齢者における3日間の調査日（全体）および屋内滞在時間帯（屋内：就寝時間帯は除く）、就寝時間帯（就寝）のエアコンディショナー（エアコン）使用時間、エアコン使用時の滞在温度湿度。*は有意な年齢差を示す。



・性差なし
 ・20 < 70, 80歳

図4 20・70・80歳代の女性および男性における屋外、屋内、就寝の滞在温度と滞在湿度。
 【】内数値は主効果と交互作用の有意確率を示す。†は有意な性差 ($p < 0.05$)、*は有意な年齢差 ($p < 0.05$)、例えば、*は男女における年齢差、*女は女性における年齢差を示す。

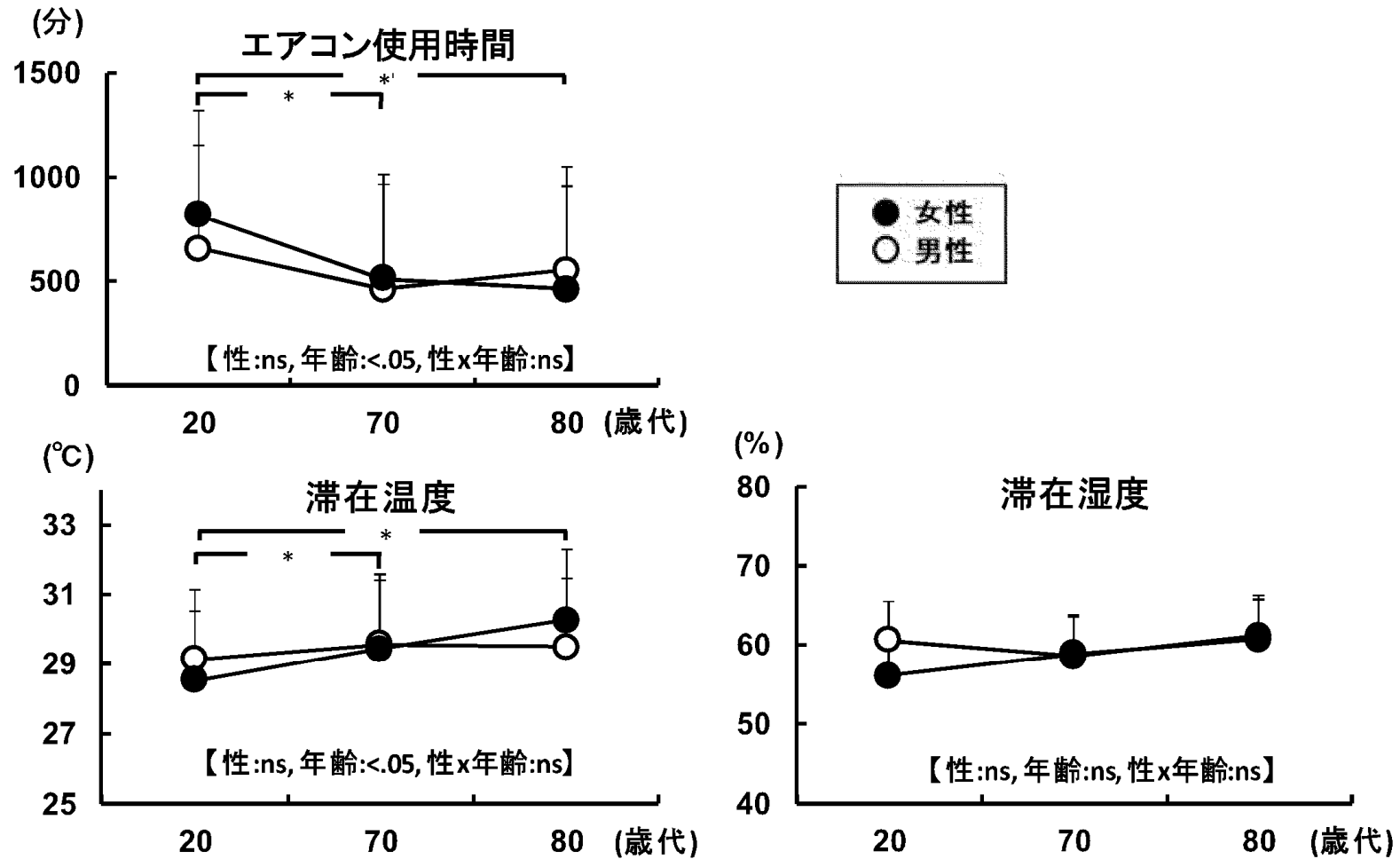
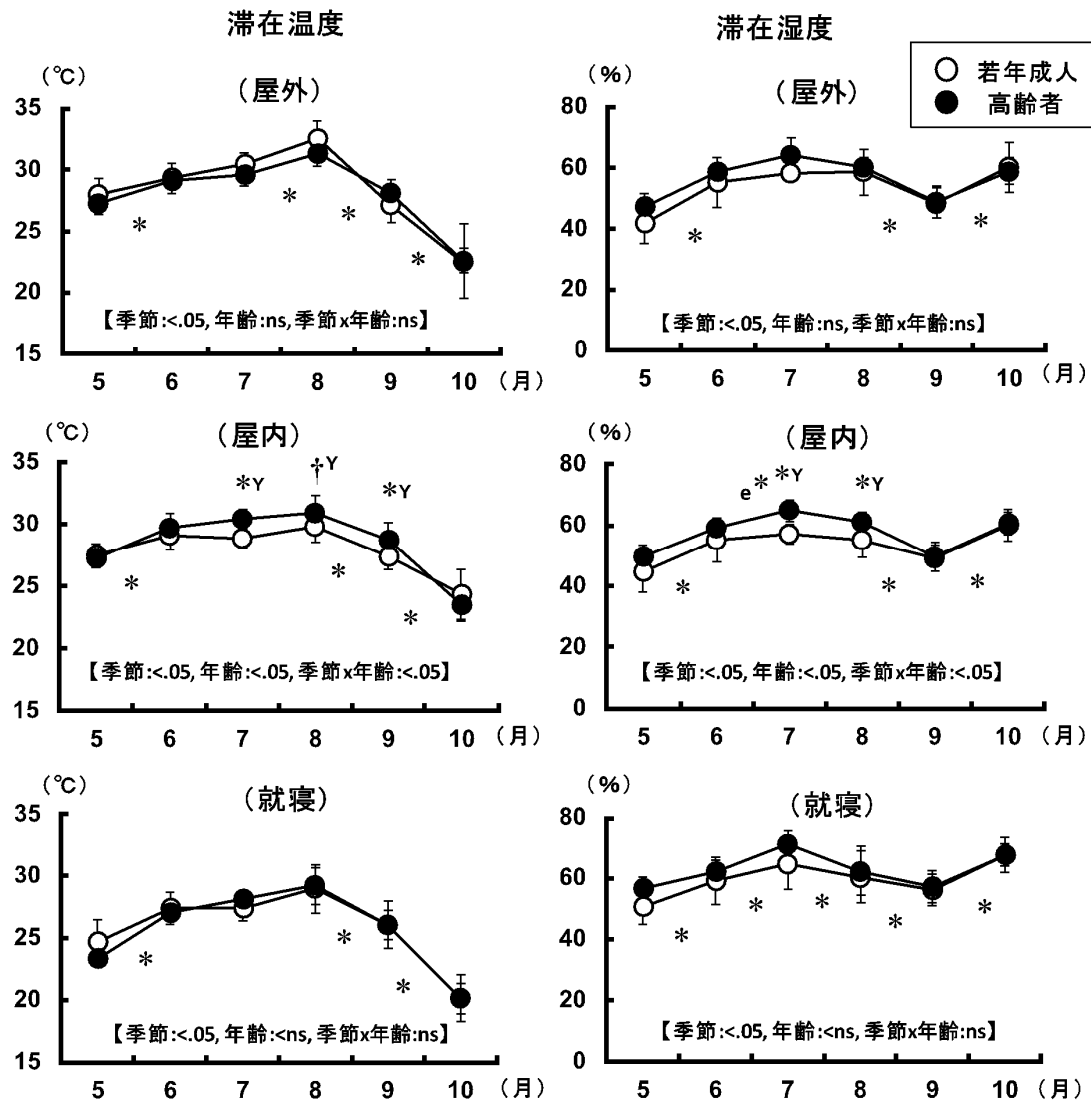


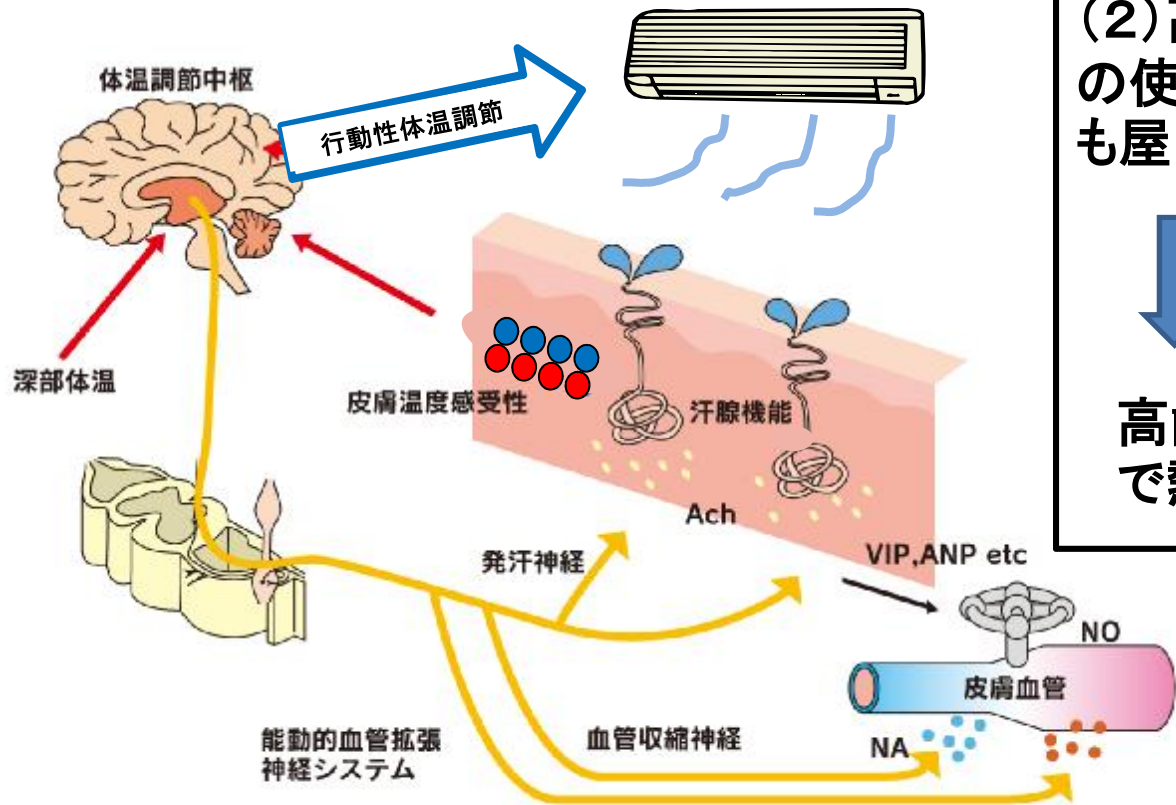
図5 20・70・80歳代の女性および男性におけるエアコンディショナー（エアコン）使用時間およびその際の滞在温度と湿度。
 【】内数値は主効果と交互作用の有意確率を示す*および*'は年齢差（それぞれ $p < 0.05$ および $0.05 < p < 0.10$ ）を示す。



高齢者の高温多湿
7~9月

図6 Ambient temperature and humidity outdoors, indoors, and during sleep of young (○) and elderly (●) females on three survey days each in May and October. The outdoors data are averages for the time spent outdoors, and indoors data are averages for the time spent indoors other than the time of sleep.
* $p < 0.05$ from previous month for young and elderly females. e* $p < 0.05$ from previous month for elderly females.
*^Y $p < 0.05$, †^Y $p < 0.10$ from young group.

まとめ



(1) 70・80歳代の男女高齢者は若年者より7月から9月に高温多湿の屋内に滞在した。
(2) 高齢者はエアコンディショナーの使用時間が短く、使用した際でも屋内温度が高かった。

↓ + (自律性体温調節の低下)

高齢者は若者より日常生活下で熱中症に罹患しやすい

高齢者には熱中症予防に向けて部屋に「温湿度計」を置き、屋内温度をこまめにチェックし、それを28℃以下に保つように提案したい。